

平成 30 年度文京区障害者地域自立支援協議会 相談支援専門部会検討内容

<実施状況>

第 2 回（平成 30 年 10 月 16 日）…地域生活支援拠点整備事業等について、文京区指定特定相談支援事業所連絡会からの報告、平成 30 年度第 1・2 回定例会議の報告

<内容総括>

（1）地域生活支援拠点整備事業等について

- ①地域生活支援拠点整備事業等の理念・目的・制度概要について、事務局より説明。
- ②文京区における地域生活支援拠点整備事業等の内容案について、障害福祉課より説明。
- ③他区市の好事例として、新宿区と厚木市の実践について、事務局より情報提供。
- ④委員による質疑応答、意見交換。※別紙「事後アンケートまとめ」参照。

（2）文京区指定特定相談支援事業所連絡会からの報告

- ①平成 30 年度指定特定相談支援事業所への聞き取り調査について
 - ・ 29 年度から約 100 名計画相談支援の利用者が増えているが、相談支援専門員の数に変化はない。
 - ・ 今後の新規相談受け入れについてはどこの事業所もほぼ難しい状況となっている。
- ②計画相談支援についてのアンケート（プレ調査）について
 - ・ 計画相談を利用している方が計画相談というサービスをどう思っているか把握するため実施した。本来は全ての障害種別で調査すべきところであったが、配慮点を統合する課題が大きく、今回は精神障害のみとした。計画相談の連絡会からさらに有志のワーキンググループを立ち上げて調査を実施している。第 3 回相談支援専門部会にて結果を報告し、その後の親会にも報告を予定している。
- ③委員による質疑応答、意見交換
 - ・ 「本調査」の実施についてはプレ調査の結果を見て判断したいと考えている。
 - ・ 回答人数の目安を 20 名に設定している点について。事業所の負担が重くなり過ぎないように 1 事業所につき、5 名ほどで進めている。精神障害の方でサービス等利用計画を作成している方が 144 名なので、その中の 1 割ぐらいの意見がつかめる見込みになる。

（3）平成 30 年度第 1・2 回定例会議の報告

①各回について事務局より報告

- ・ 第 1 回…「地域で活き活きと生活していくために ～さまざまなライフステージについて話し合う～」というテーマで開催。各事業所で感じている課題の共有ができた。
- ・ 第 2 回…「社会資源、知って！使って！つながって！そして変わる明日から！～社会資源を活用する上で、まず“人”と“人”との出会いが必要です。出会いがあると、情報交換だけでなく、アイデアも広がります。その社会資源の情報とアイデアを考え合いながら、明日からの当事者支援や地域作りに活かしていきませんか！～」というテーマで開催。福祉サービス以外の社会資源（文京総合福祉センターのお祭り等）の発見や共有ができた。
- ・ 第 3 回は 12 月 5 日(水)18:30～区民センターで開催。次回報告予定。

②委員による質疑応答、意見交換

- ・ 支援拠点整備事業の 5 つの機能（相談支援、緊急時対応、体験の機会、専門的人材育成、地域づくり）だけでなく、「障害の有無に関わらない相互交流を図る機能」を厚生労働省は示している。今年度の定例会議はそういった、いわば所属機関における相談支援を超えた取り組みや連携方法に関する内容となっている。